

あまぬまスマイル委員会(天沼中学校区地域教育推進協議会)は、地域内にある組織・活動のネットワークの広がりを活かし、地域社会全体で子どもの育成や教育に取り組む協議体です。0歳から15歳までの子どもの育成や教育をコミュニティの問題として考え、地域の教育・子育てにかかわる課題に主体的に取り組んでいます。

AMANUMA JUNIOR HIGH SCHOOL

スマイルニュース発行に寄せて

杉並区立天沼中学校 校長 池田 和幸

天沼中学校に赴任して1年が経とうとしています。天沼中学校は様々な地域の方に支えられて運営している学校だということを改めて感じる1年でもありました。その中でも天沼中学校区地域教育推進協議会は、天沼中学校を核とした「教育」をキーワードに地域を繋げていく役割を担った組織です。

学校ではコロナ禍以降、環境の変化が子どもたちへに様々な影響を及ぼしていると感じています。例えば、タブレット端末の活用が進み、タイピングやプレゼン資料の作成が上手な生徒が増えたことが挙げられます。逆に子どもたちの人間関係を形成する力が少なくなっており、ちょっとしたことでトラブルに発展したり、保護者同士の関係も希薄になっていて、学校が間を取り持つことが増えてきたりしていることなど、コロナ禍前にはあまり感じなかったことが報告されています。

時代の変化と片付けてしまうことは簡単ですが、大家族から核家族へ、そして共働き世代の増加、家族を取り巻く環境の変化の中で、地域で子どもを育てていく重要性はさらに高まっていると思います。家庭、学校、地域の三者がしっかりと協力し、子どもたちの健全な成長に寄与していくことは、これまでと変わらず重要です。

だからこそ、地域と家庭、学校をつなぐ役割である、地域教育推進協議会の役割はこれまで以上に重要になってきていると思います。社会教育のハブとしての地域教育推進協議会の活動に、今度とも様々なご協力を賜りたく存じます。

エコキャップ



今回のキャップ回収量：160.00 kg

- 個数：80,000個
- ワクチン：80人分
- CO2：504.00 kg

平成22年、地教推発足とほぼ同時期から天沼中学校の生徒会中心にエコキャップ回収活動が始まり毎年続けてきた活動でしたが、コロナの影響でここ数年はストップしていました。一昨年から昨年にかけて、天沼中学校の生徒会や校長先生と地教推の関係者で今後の活動について話し合いを重ねてきました。

その結果、学期に1回生徒会が「エコキャップ回収を再開する」と方針が決まり、地教推がサポートしながら7月18日放課後に15名の生徒さんと一緒に各回収拠点を回りました。とても暑い日で汗を流しながら、生徒さんたちは一生懸命地域の皆様方に挨拶をしながらキャップを回収されていました。

2台のリアカーが満タンになるほどの量でした。初めて回収を経験した生徒さんたちは、「地域の皆さんがこんなに沢山のキャップを集めていただいているのか。」と驚いている様子でした。自分たちで回収を体験したことで今後どうしたらいいのか検討していく良いきっかけになったのではないのでしょうか。エコキャップ活動が始まった当初から10年以上が経過し、中学生の意識や取り組みが変化してきたことやコロナ禍で以前のような活動とは異なる状況になってきていることから、来年度へ向けて生徒会と検討し今後の活動方針を決めていくことを考えています。まず、地教推としては今後も回収活動のサポートをさせていただく予定です。地域の多くの皆様ご協力ありがとうございました。

重症心身障害者通所施設 令和6年 わかば夏祭り



7月20日、旧若杉小学校体育館にて「わかば祭」が開かれ、天沼中学校生徒も9人がボランティアとして参加しました。今年も、250人を越える来場者がありました。

朝から沢山のスタッフやボランティアの方々が準備をはじめ、子どもたちの目につきやすい夏祭りの飾り付けだけではなく、特殊な車椅子に乗った子どもたちにもよく見えるように会場の端から端までつりさげたカラフルな飾り付けを工夫されていました。お祭りがはじまると大きな太鼓の音が鳴り、かき氷、わたあめ、ゲームを大人も子どもも楽しんでいました。ゲームやお手伝いを通して、相手の立場にたって声をかけたり、寄り添ったりしながら共に住む地域の子どもたちをいつくしみ、一緒に過ごせる温かく楽しい時間をすごせました。

天中生たちも、多くのボランティアに混じり、はじけるような笑顔とパワーで祭りを盛り上げてくれました。